

**GENELEC®**

**W371A**  
SAMウーファー・システム

オペレーティング・マニュアル



## イントロダクション

Genelec 製品をお選びいただき誠にありがとうございます。信頼性の高いサウンドを再現するという夢の実現は、1978年の創業から現在に至るまで、Genelecの情熱の源です。Genelec モニターは、すでに世界中に100万台以上出荷されています—Genelecのストーリーにようこそ！

Genelec モニターは長い製品寿命を目標に設計されており、認定されたサステナブルな製造工程のもと、フィンランドのイーサルミで細心の注意を払いハンドメイドで生産されています。製品は出荷前に1台ずつ検証と調整が施され、長期にわたり保守パーツもサポートされます。省エネルギー設計により、自動スタンバイ・モード時だけでなく、通常運用時でも低消費電力で駆動します。

購入後は、Genelec ウェブサイト (<http://www.community.genelec.com/>) にて製品をご登録ください。

登録することで保証期間が通常の2年から5年へと延長され、長期にわたり保証サービスと保守パーツがサポートされます。

## システム特性

Genelec W371A は、斬新な信号処理により低域の音声信号を多様に放射する、最新のアダプティブ・ウーファー・システムです。

高い精度と信頼性が求められるプロフェッショナルなモニタリングに最適な製品です。The Ones モニターと組み合わせることで、数々の卓越した Genelec テクノロジーの恩恵を受けることができます。極めて広いオーディオ帯域の指向性をコントロールでき、ポイント・ソース・オーディオのメリットを提供します。

低域の指向性をコントロールできることで、リスニング・ルームの特性やスピーカーの特性、リスニング・ポジションに応じた最適な低域指向特性を選択できます。W371A は、特定周波数に顕著な音響ノッチ（キャンセレーション）が生じる、音響的にコントロールが難しいと言われる空間でも、フラットで自然な低域周波数特性を実現します。

W371A は、より広い周波数レンジと、包容力に優れたサウンドの提供を可能とした、従来のサブウーファーとは一線を画すアダプティブ・ウーファー・システムです。ステレオ・イメージを崩すことなく、低域を再現することができます。

W371A は、組み合わせて使用するメイン・モニターの下またはすぐ側で、音響的に反射の多い壁からの距離をある程度取りながら自立して設置することを前提に開発されています。

W371A は、ウーファー・ユニットを2基搭載しています。上部のウーファーは密閉型、下部のウーファーはバスレフ・ポート型のウーファー・システムが採用されています。各ユニットは400Wのアンプでそれぞれ駆動され、DSPで制御されます。詳細は、本マニュアル3ページ目のブロック図（図4参照）をご参照ください。

W371A は、組み合わせて使用するモニターとペアで音響補正を行うことで真価を発揮する製品です。補正処理は、Genelec GLM ソフトウェアで実行できます。

1台のW371Aと1台のメイン・モニターを組み合わせ、Genelec GLM スピーカー・マネージメント・ソフトウェアで音響測定を実行すると、W371Aがメイン・モニターの出力に合わせて補正されます。これにより全体の周波数レンジが広がり、最大SPLと動的キャパシティが増加します。つまり、W371Aがメイン・モニターを拡張する役割として機能します。W371Aは、Genelec 8341A、8351B および8361A “The Ones” 3ウェイ同軸モニターに対応します。従来のニアフィールド・モニタリングの範囲より離れたリスニング・ポジションでも理想的なポイント・ソース・モニタリングを可能にします。



図1. W371Aの構造と8351Bモニター

## 製品内容

製品には GLM ネットワーク・アダプター・キット (x 1、以下 GLM Kit)、電源ケーブル (x 1)、ネットワーク・ケーブル (5 m x 1)、オペレーティング・マニュアル (本書) が付属します。

## オペレーティング・モード

W371A は、3つの異なるオペレーティング・モードで低域を出力します。使用する空間や用途、必要なスイート・スポットのサイズによって、最適なモードは異なります。

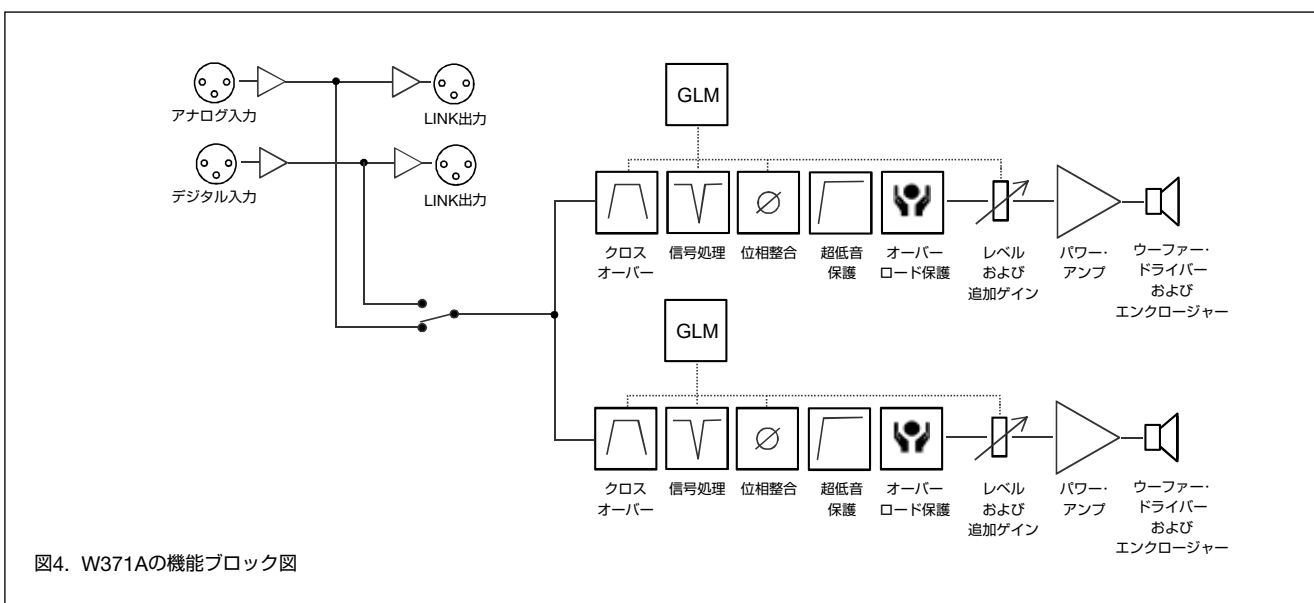
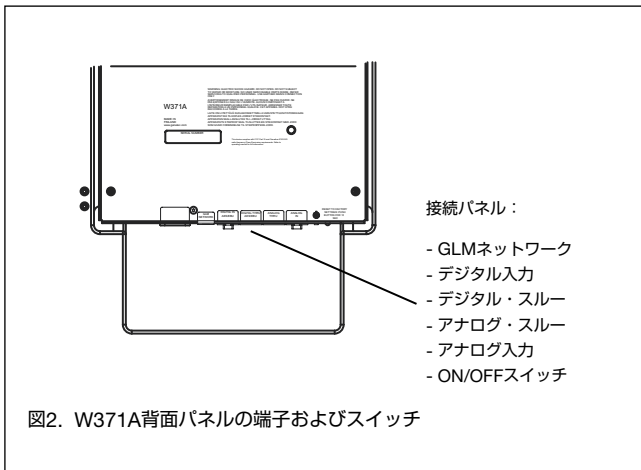
一度すべてのモードをセットアップし、各モードを聴き比べた上で、使用するモードを選択することができます。

GLM ソフトウェアは、キャリブレーション完了後に特性のフラットさと位相の相関の度合いをスコアで表示し、最終的な補正の品質を評価します。これらのスコアは、お使いの環境に最適なオペレーティング・モードを選択する際の目安として使用できます。ただしこれらのスコアはあくまで目安として使用し、最終的にどのモードを選択するかは、各モードで補正したシステムを実際に聴き比べて判断することをお勧めします。

選択可能なオペレーティング・モードは以下の通りです。

**コンプリメンタリー・モード:** 2基のウーファーが個別に動作し、フラットな周波数特性を実現します。初期設定のオペレーティング・モードです。

**コンティニュード・ダイレクティビティ・モード:** 2基のウーファーが同様に動作し、The Ones との連続的な指向性マッチングを実現します。このモードでは、超低域まで一定の指向性を維持することが可能です。



**Null ステアリング・モード**：残り3つの動作モードは、アンチリプレッション・モードです。これらのモードでは、個別のフィルターセットを呼び出します。それにより床、後壁（スピーカーの後ろ）、および側壁により生じる一次反射方向への出力を減らすように最適化された指向性パターンが提供されます。

メトリック・ノッチ/シェルビング・フィルターを GLM (Genelec Loudspeaker Manager) ソフトウェアが自動的に調整し、室内音響によるサウンドの変化を正確に補正します。こうして SAM モニターは、あらゆる音響環境でのニュートラルなサウンドと正確なステレオ・イメージを実現します。W371A は、低域での SAM テクノロジーの効力を拡張します。

## GLM™ (Genelec Loudspeaker Manager™) ソフトウェアおよびGLM Kit

GLM ソフトウェアは、W371A の性能を最大限に引き出し、リスニング・ルームの室内音響を最適に補正します。W371A をセットアップする際は、常に GLM ソフトウェアを使用することをお勧めします。

GLM ソフトウェアは [www.genelec.jp/glm](http://www.genelec.jp/glm) より無料でダウンロード可能です。ウェブサイトを定期的に確認するか、クラウド版を使用することで、常に最新の機能を活用することができます。

GLM ネットワークの構築と運用には、GLM アダプターや計測用マイクロフォンなどの必要なハードウェアが同梱される GLM Kit が必要です。GLM Kit は、W371A に付属します。

## SAM™ (Smart Active Monitor)

Genelec SAM テクノロジーは、モニタリングの信頼性と精度を改善します。スマート・アクティブ・モニターに搭載される複数のパラ

## オーディオ入力

W371A は、バランス・ラインレベル・アナログ入力および AES/EBU デジタル入力を備え、あらゆるプロフェッショナル環境に対応します。アナログ信号の最大入力レベルは、+25 dBu (13.7 Vrms または 19.5 V ピーク) です。入力感度を最大に設定すると、-6 dBu のアナログ信号を入力した際に 100 dB SPL (@1m) の音圧レベルを実現します。また、-30 dBFS のデジタルオーディオ信号を入力した際は 100 dB SPL (@1m) の音圧レベルを実現します。\* 0 dBFS は、最大デジタル許容入力値を示します。

XLR オス・アナログ出力端子は、アナログ入力信号をそのままスルー出力します。アナログ信号使用時にペアとなるメイン・モニターに接続するために使用する端子です。

アナログ入力は、AES/EBU 非接続時に選択されます。AES/EBU フォーマットのデジタル・オーディオ入力は、適切なデジタル・オーディオ信号（無音も含む）の入力が検出されると自動的に有効になります。

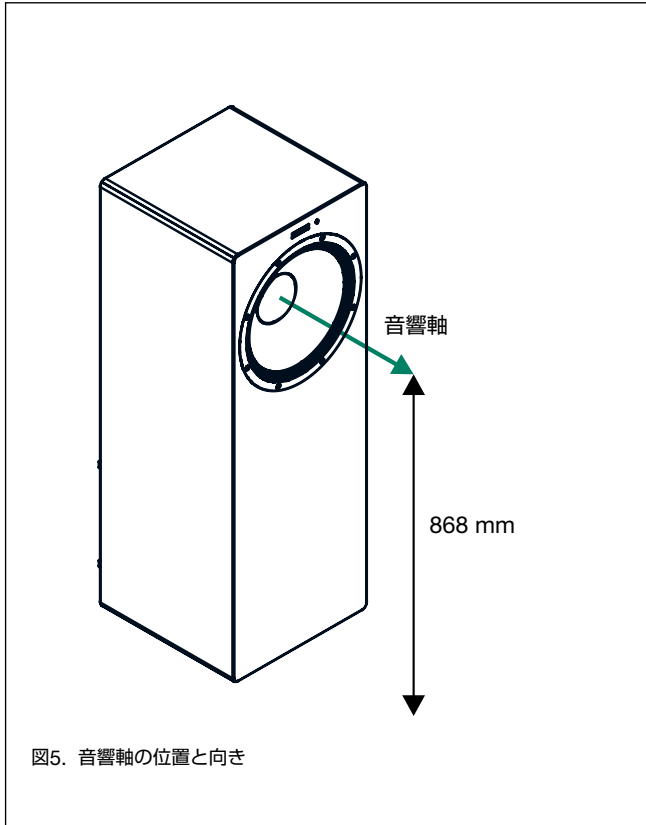


図5. 音響軸の位置と向き

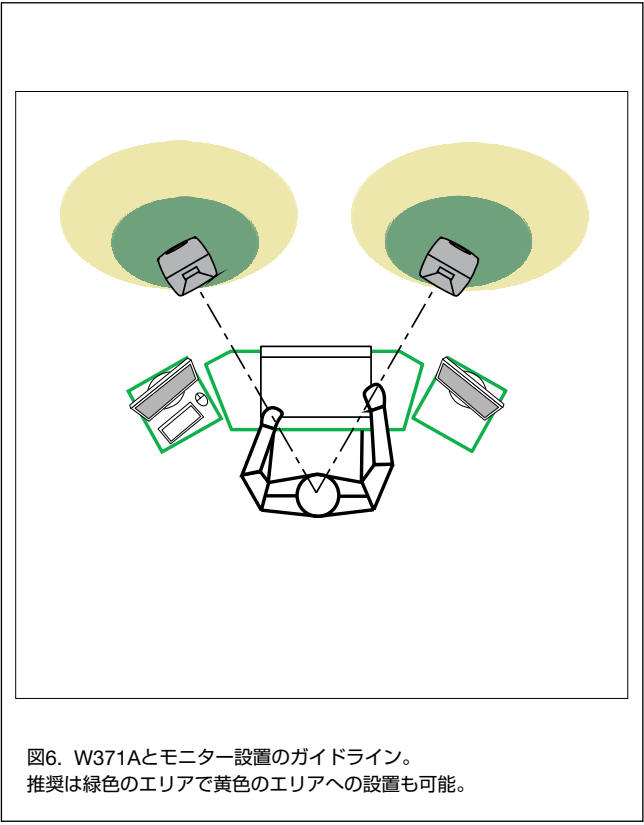


図6. W371Aとモニター設置のガイドライン。  
推奨は緑色のエリアで黄色のエリアへの設置も可能。

す。W371A が GLM ネットワークの管理下にある場合はこの機能が無効となり、いずれの入力も選択可能になります。

AES/EBU 入力は、2 チャンネルのオーディオ信号を 1 本のケーブルで伝送します。XLR オス・デジタル出力端子は、デジタル入力信号をそのまま出力します。デジタル信号使用時にペアとなるメイン・モニターに接続するために使用する端子です。

### 電源マネージメント

W371A の電源は、世界中のあらゆる電圧 (AC100 ~ 240 V、50 ~ 60 Hz) に対応し、世界のどの国でも使用可能です。電圧が変動した場合でも、常に最大電源出力をドライバーに提供します。発電機やインバーター、品質の低い UPS 機器を使用する場合は、供給電圧を安定させるため高調波のフィルタリングを行うことをお勧めします。

省電力機能 ISS™ (Intelligent Signal Sensing) を搭載し、一定時間信号入力が検出されない場合、消費電力 2W 以下のスタンバイ・モードに自動的に切り替わります。スタンバイ・モードは、入力が再び検知されると自動的に解除されます。省電力モードが有効になるまでの待機時間は、GLM ソフトウェアで設定可能です。ISS を有効にすると、モニターの電源を常時オンにしておくことができるため、システムの運用を即座に開始できます。

### W371A の設置

W371A は、自立による設置が可能です。W371A の上にメイン・モニターを設置するのが理想的ですが (図 6 参照)、W371A をメイン・モニターの背後や横に設置する方法も可能です。ただし、W371A をメイン・モニターと離れた位置に設置することは避けてください。また、アンプやバスレフ・ポートの通気を確保するため、壁から 10 cm 以上離して設置してください。メイン・モニターと同様に、音響軸をリスニング・ポジションに向けて設置してください。また、部屋に対して左右対称の位置に設置することを強くお勧めします。

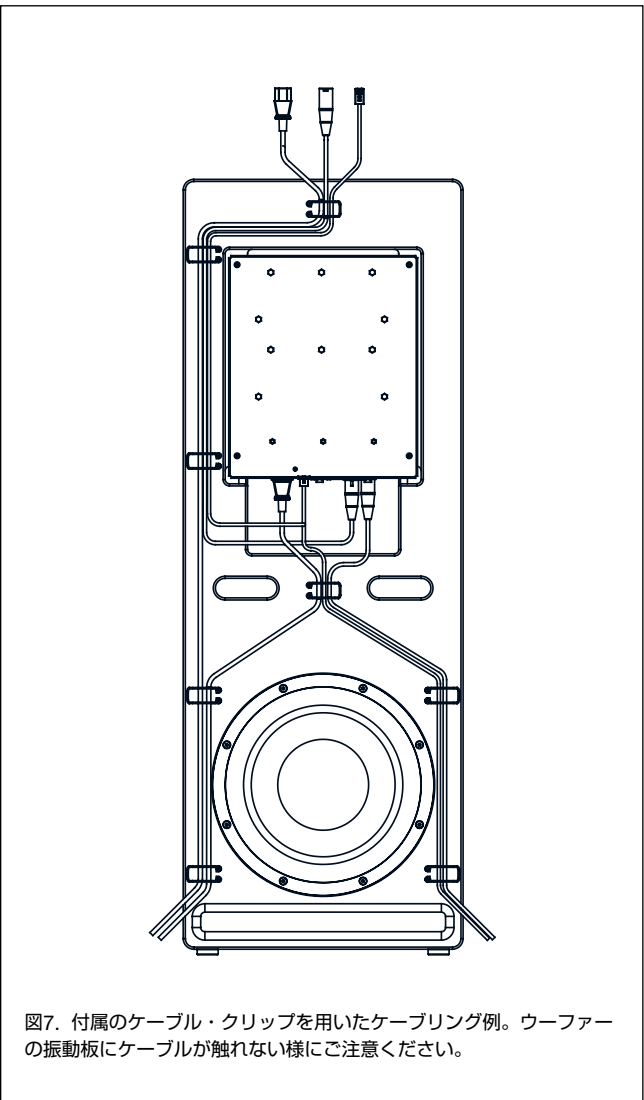


図7. 付属のケーブル・クリップを用いたケーブリング例。ウーファアの振動板にケーブルが触れない様にご確認ください。

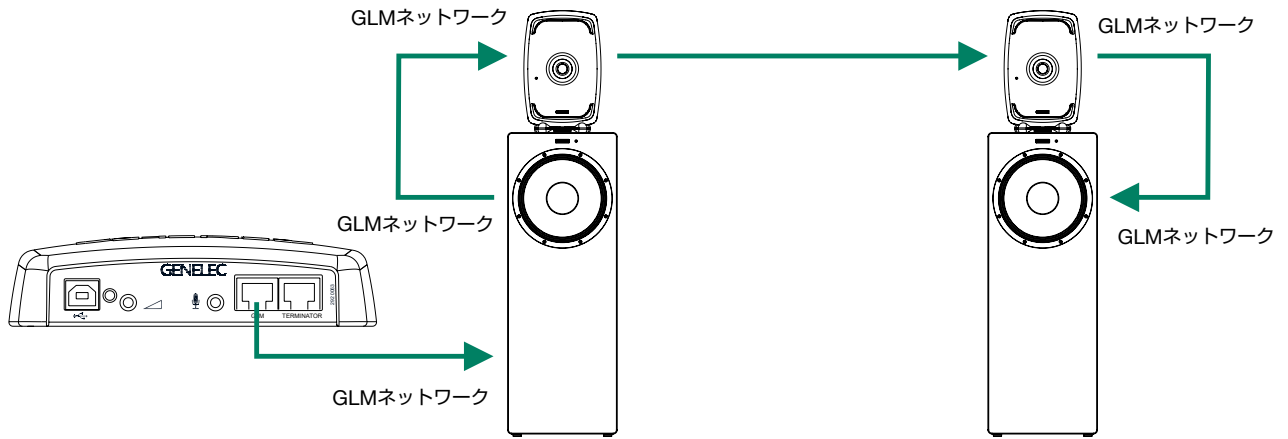


図8. 付属のネットワークケーブル (5 m) を用いたGLMネットワークの接続例 ※オーディオ信号用のケーブル接続は含まず

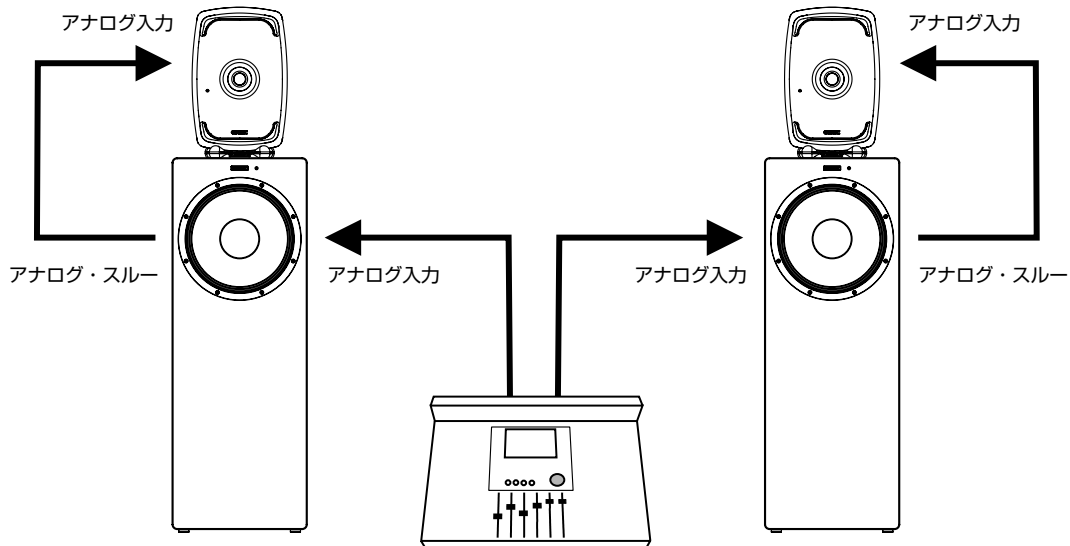


図9. アナログ・ステレオ・オーディオ信号のケーブル接続

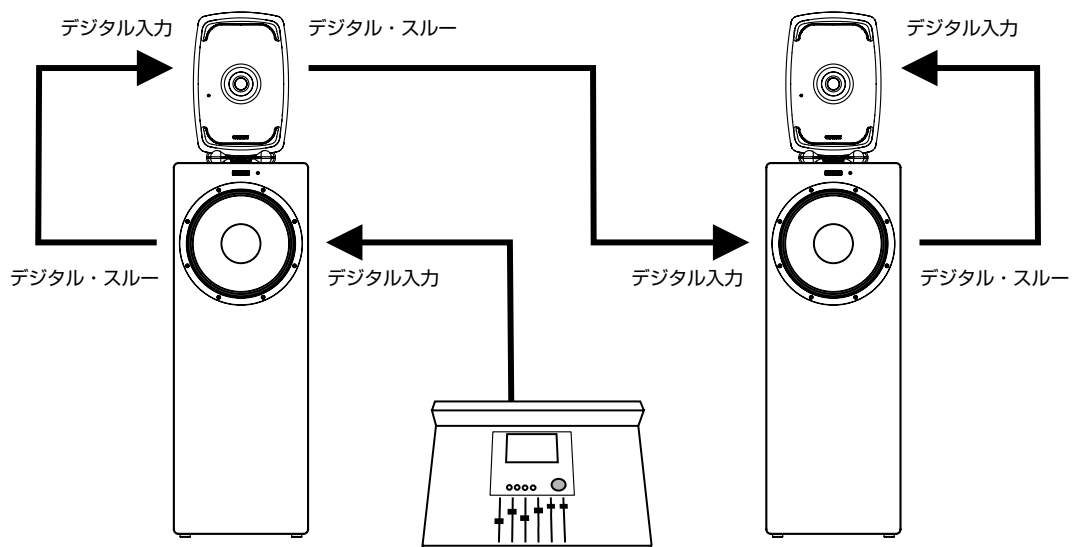


図10. AES/EBUデジタル・オーディオ信号のケーブル接続

## W371A と The One モニターのケーブル接続

W371A の背面パネルには、ケーブルをまとめるクリップが搭載されています。ドライバーや電子回路との距離を保つことができ、ケーブルによる不要なノイズを抑えることができます。取り付けは付属の M4x10 を用いて、サイズ 20 のトルクス・ドライバーを使用してください。正しいトルクは 2 Nm です。ネジの締め過ぎにご注意ください。

## GLM™コントロール・ネットワークを用いた セットアップ

W371A および SAM アクティブ・モニター・シリーズのシステム・セットアップおよびキャリブレーションは、GLM ソフトウェア (PC/Mac) でのみ実行可能です。セットアップの手順と GLM の使用に関する詳細は、GLM システム・オペレーティング・マニュアルをご参照ください。

GLM ソフトウェアおよび Genelec 独自のモニター・コントロール・ネットワークは、モノラルやステレオから複雑な 3D イマーシブ・システムまで、複数のサブウーファーも含むあらゆる再生システムに対応し、音響の均一化と補正を自動的に行います。GLM には、モニタリング・システムの自動測定/補正を行う AutoCal が搭載されます。数千にも及ぶプロフェッショナルのリスニング環境から得られたデータを元に構築された優れたアルゴリズムです。

GLM Kit によるセットアップは、以下の手順で行います：

- 各モニターとアダプティブ・ウーファー・システム、そして最後に GLM アダプターのコントロール・ネットワーク入力を CAT5 (RJ45) ケーブルで接続します (図 8 参照)。
- GLM アダプターとコンピューターを USB ケーブルで接続します。
- Genelec 測定用マイクロフォンを取り付けたマイク・スタンドをリスニング・ポイントに設置します。マイクロフォンは上に向け、エンジニアの耳の高さに合わせてスタンドを調整します。測定用マイクロフォンは GLM Kit に付属します。
- マイク・ケーブルを GLM アダプターのマイク入力に接続します。
- Genelec のウェブサイト ([www.genelec.jp/glm/](http://www.genelec.jp/glm/)) から GLM ソフトウェアをダウンロードします。GLM ソフトウェアをインストール/起動し、画面の指示に従いモニターの計測と設定を行います。
- コンピューター無しのモニター運用を予定している場合は、GLM ソフトウェアを用いて設定を機器本体に保存してください (メニュー "Group" > "Store Group Settings")。

GLM ネットワークを使用すると、スピーカー・セットの切り替えやオーディオ・チャンネルのソロ/ミュート、補正後の再生レベルの変更など、日々の運用に便利なモニター・コントロールが可能です。これらの機能を使用するには、GLM ネットワークに接続されたコンピューターで GLM ソフトウェアを起動する必要があります。

キャリブレーションやセットアップの設定を固定して運用する場合は、各設定をネットワーク内のすべてのモニターに格納することもできます。この場合、コンピューターはセットアップ時のみ必要となります。

GLM ネットワークの接続は、“CONTROL NETWORK RJ-45” 端子と標準的な CAT ケーブルで行います。GLM コントロール・ネットワークはイーサネット LAN と互換性がありません。イーサネット LAN には接続しないでください。

| 色           | 意味  |
|-------------|---|
| 緑色の点灯       | 通常の状態   |
| 緑色の点滅       | GLM がモニターと通信中です                               |
| 10 秒毎に緑色の点滅 | ISS 省電力 スリープ・モードが有効です                         |
| 赤色の点滅       | パワー・アンプのオーバーロード保護機能が有効です (保護回路により音声信号は変更されます) |
| 赤色の点灯       | モニターがミュートされています                               |
| 黄色の点灯       | モニターがアクティブな (再生中の) グループに属していません               |
| 黄色の点滅       | オーバーヒート保護機能が有効です (保護回路により音声信号は変更されます)         |

表1. フロント・パネルのLED表示まとめ

## キャリブレーションおよび運用時に役立つヒント

GLM システムは、W371A と (多くの場合) その上に設置されたメイン・モニターを組み合わせ、1 つのモニターとして取り扱います。

音響キャリブレーションのプロセスは、2 つの行程に分類されます。まず、メイン・モニターの測定および補正を行います。メイン・モニターのキャリブレーションを確定すると設定がメイン・モニターに転送され、これが次に行う W371A のキャリブレーションの基準設定となります。次に W371A のキャリブレーションを選択し、画面の指示に従ってモニターとのペアリングと W371A ウーファーのキャリブレーションを行います。

W371A による効果を確認するため、モニターのみ (W371A ウーファー無し) で構成されたグループを新たに作成しても良いでしょう。まずグループを複製し、グループ定義ページ (メニュー "Group" > "Edit Group") でグループ名を目的に応じて変更します (例: "Monitoros Only" ("モニターのみ") 等)。作成したグループの W371A アイコンをダブル・クリックすると、アイコンが黄色に変化し W371A がグループから削除されたことを示します。グループを確定し、画面の指示に従ってキャリブレーションを実行します。

すべてのキャリブレーションを保存するには、キャリブレーション完了後、設定を確定し ("Confirm Calibration")、セットアップを保存します ("Save Setup")。

## モニタリング・システムを構築する

通常は自動生成された音響キャリブレーション設定を手動で変更する必要はありません。ここでは GLM の柔軟性を示すため、キャリブレーション設定を手動で変更する方法を紹介します。音響設定を手動で変更する場合は、キャリブレーション済みの設定を複製してから編集を行うことをおすすめします。Group タブを開いた状態で、メニューから "Group" > "Duplicate Group" を選択すると、すべてのキャリブレーション設定を含むセットアップが複製されます。メインの GLM ページで編集したいモニターをダブル・クリックすると、Acoustic Editor が表示されます。この画面で各モニターの設定を調整できます。

Acoustic Editor ウィンドウ右下のボタンで設定を確定します。画面がメインの GLM ページに戻ります。

音響設定を手動で変更すると、現在のグループで W371A を再キャリブレーションする必要があります。

Group タブにて、メニューから "Group" > "Edit Group" を選択します。ここでグループ名を変更することも可能です。次に、W371A がグループに追加されていることを確認します。黄色の W371A アイコンをダブル・クリックすると、アイコンが緑色に変化し、W371A がグループに追加された事を意味します。グループを確定します。モニターのキャリブレーションを実行する AutoCal ページに画面が切り替わります。

音響設定を手動で変更したため、自動再キャリブレーションの必要はありません。“Skip AutoCal”をクリックします。これで手動調整したスピーカー・キャリブレーション設定が、W371Aに引き継がれます。

次に Woofer Cal 画面の指示に従って W371A とモニターをペアリングし、使用したい W371A のオペレーティング・モードを選択、クロスオーバー周波数レンジを選択後(初期設定の使用も可)、最後にマイク・アイコンをダブル・クリックすると、W371A のキャリブレーション処理が開始されます。W371A の各ウーファー、次にメイン・モニターからスイープ音が出力され、その後、演算処理が開始されます。演算処理の進捗状況は、GLM ページに表示されます。

この行程は、W371A のキャリブレーション前にモニターのキャリブレーション設定を手動で編集した場合にのみ必要となります。通常この手順は不要です。

## 各モードの評価

他のオペレーティング・モードを評価するには、各モード用にグループを複製すると良いでしょう。“Group” タブを開き “Duplicate Group” を選択します。複製したグループのマイク・アイコンをダブル・クリックし、AutoCal を再実行します。“Skip AutoCal” を押します。次に “Woofer Cal” ページを開き、マイク・アイコンをダブル・クリックして他モードのキャリブレーションを再実行します。

たとえば、モニターのみ、モニター + W371A (補完モード)、モニター + W371A (指向性モード)、モニター + W371A (Null ステアリング・モード) のグループを 4 つ作成し、比較テストを行うことができます。各モードの品質を適切に比較評価するには、ある程度の期間 (最大 1 週間) が必要となるかも知れません。

## 周波数特性のトリム

キャリブレーションを行うことで、厳密なモニタリングにも対応できる最先端のフラットな周波数特性を実現できます。モニタリング環境や過去のリスニング経験により、カーブがわずかに下に傾いた周波数特性を好むユーザーがいることも事実です。GLM の “Group” メニューにある “Sound Character Profiler” を用いると、各モニター・グループの周波数特性を簡単に調整することができます。コンピューターと接続せずにスピーカーを運用する場合は、“Store Group Settings” を選択することで、このトリム設定をスピーカーに転送できます。セットアップ・ファイルをコンピューターに保存することで、GLM を実行するコンピューターに設定を保存可能です。

## クロスオーバー・レンジを選択する

W371A のキャリブレーションの際、クロスオーバー周波数の範囲を選択できます。選択できる範囲は、室内音響、W371A、リスニング・ポジションによって変化します。モニター応答のノッチを避けることも可能です。クロスオーバーの範囲は、初期設定で 150 ~ 250 Hz に設定されています。上は 300 Hz、下は 50 Hz までの範囲で設定可能です。測定カーブと試聴による評価を考慮し、選択するオペレーティング・モードと各設定を決定してください。大きなコンソールの背後に、前面のウーファーが遮られる様に W371A を設置した場合は、低域のクロスオーバー・レンジを 250 Hz 以下に設定することをお勧めします。

## 動作環境

本製品は、室内での使用のみを想定して設計されています。許容周囲温度は 15 ~ 35°C で、相対湿度は 20 ~ 80% (結露なし) です。低温環境で保管または輸送した後に暖かい部屋に搬入した場合は、結露を防ぐため 30 分から 1 時間程度放置してから製品の開封 / 電源投入を行うてください。

W371A 周囲は十分に冷却する必要があります。両側は最低 10 cm の隙間を空けてください。壁に埋め込んで設置することは想定されていません。

## フロント・パネルのLED

通常時、フロント・パネルの LED は緑に点灯し、通常のオペレーティング・モードであることを示します。赤色と黄色の点灯は、特定の条件で点灯します。詳細は表 1 をご参照ください。

## メンテナンス

W371A の保守および修理は Genelec 認定サービスでのみ実施可能です。工場出荷時に施されたキャリブレーションが失われるほか、故障の原因にもなりますので、お客様ご自身でエンクロージャーの分解等は行わないでください。

## 安全性についての検討事項

W371A は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、ユニットを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- 保守および修理を Genelec 認定サービス以外の者が実施してはけません。エンクロージャーを分解することはおやめください。
- アースに非接続の電源ケーブルを接続したり、保護接地端子の無い電源接続は、怪我の原因となります。
- 火災や感電を防ぐため、製品を水または湿気にさらさないでください。
- 花ピンなど液体で満たされた物体を製品の上や付近に置かないでください。
- アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントから取り外されていなければ、AC 電源から完全には接続解除されません。
- 十分な冷却を保つためには、製品の周囲に空気が対流する必要があります。製品周辺の空気の流れを妨げないように設置してください。

## 警告!

本製品は、恒久的な聴覚障害を引き起こす 85 dB 以上の音圧レベルを出力します。1 日 8 時間以上使用する場合は、音響暴露レベルを 80 dB(A) に制限することで、聴覚障害のリスクを抑えることができます。音響暴露レベルが 3 dB 増加すると、音響エネルギーは倍増します。つまり同じリスク・レベルを保つためには、リスニングの時間を半分に抑える必要があります。

## 保証

Genelec W371A には 2 年間の保証が付帯します。さらに製品登録を行うことで、保守パーツを含む 3 年間の保証が追加されます。販売条件や保証に関する詳細は販売店にお問い合わせください。

## FCC規則への準拠

注意: 本製品は、テストの結果クラス B デジタル機器の制限に適合し、FCC 規則パート 15 に準拠していることが認められています。これらの制限は、住宅への設置によって生じる有害な干渉からの適切な保護を目的として策定されています。本製品は無線周波数エネルギーを発生、使用、放射するため、指示に従わずに設置および使用された場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、干渉が生じ

ないことが保証される特別な設置方法はありません。本製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（機器電源をオン/オフすれば判別できます）、以下の対策を1つ以上行うことをお勧めします。

- 受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- 機器と受信機の距離を空ける。

- 受信機が接続されているコンセントと別系統のコンセントに機器を接続する。
- 取扱店または経験豊富な無線 / テレビ技術者に問い合わせる。（製造者の許諾を得ずに変更を加えると、FCC に準拠しなくなり機器を操作する権限が取り消される場合があります。）

## 仕様

| システム仕様   | W371A  |
|--|--|
| 低域カットオフ周波数 -6 dB（無響室、連続指向性モード）                       | 23 Hz*                                       |
| 高域カットオフ周波数 -6 dB（無響室、連続指向性モード）                       | 500 Hz**                                     |
| 周波数特性の精度（無響室、連続指向性モード）                               | ± 3 dB (25 Hz - 450 Hz)                      |
| ドライバー  | フロント 356 mm (14 in)、リア 305 mm (12 in)        |
| 高調波歪、軸上 @1 m、半空間、30 ~ 100 Hz                         | 2次 ≤ 3% @ 100 dB SPL<br>3次 ≤ 2% @ 100 dB SPL |
| 高調波歪、軸上 @1 m、半空間、>100 Hz                             | < 0.5% @ 95 dB SPL                           |
| 30 ~ 100 Hz を平均した正弦波最大短期 SPL 出力、半空間、1 m              | ≥ 117 dB SPL                                 |
| 100 ~ 500 Hz を平均した正弦波最大短期 SPL 出力、半空間、1 m             | 120 dB SPL                                   |
| ピンク・ノイズによる最大ピーク SPL 出力、半空間、1 m（長時間出力はドライバー保護回路により制限） | ≥ 123 dB SPL                                 |
| 自己生成ノイズ・レベル、半空間、軸上 @1 m (A 特性)                       | ≤ 15 dBA                                     |
| 重量   | 61 kg  |
| 寸法<br>高さ（足無し）<br>高さ（足あり）<br>幅<br>奥行き                 | 1100 mm<br>1108 mm<br>400 mm<br>400 mm       |

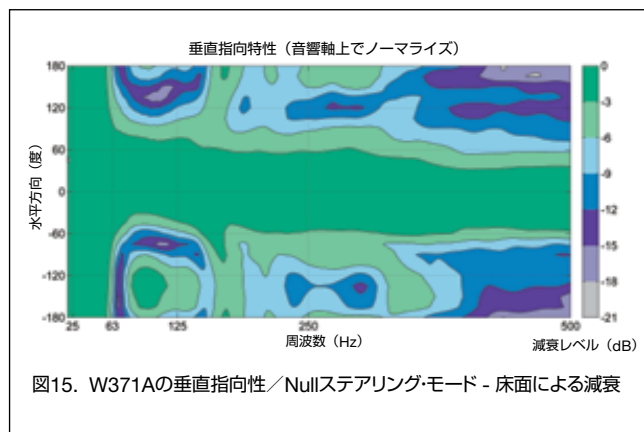
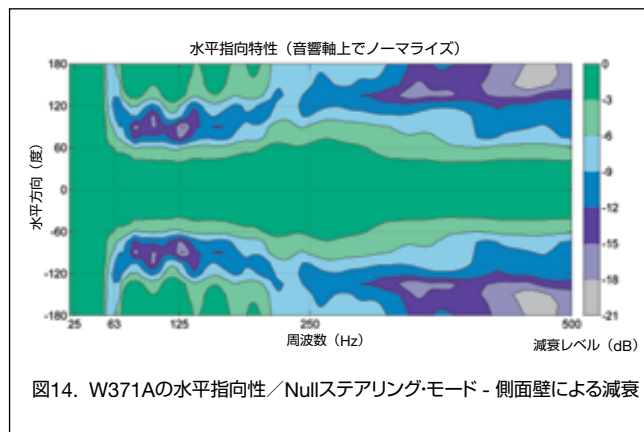
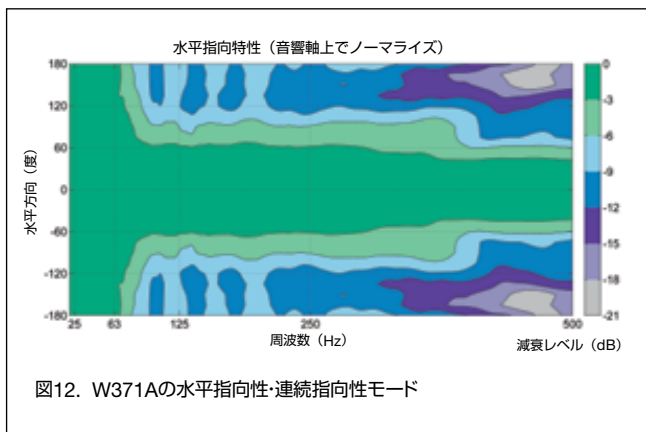
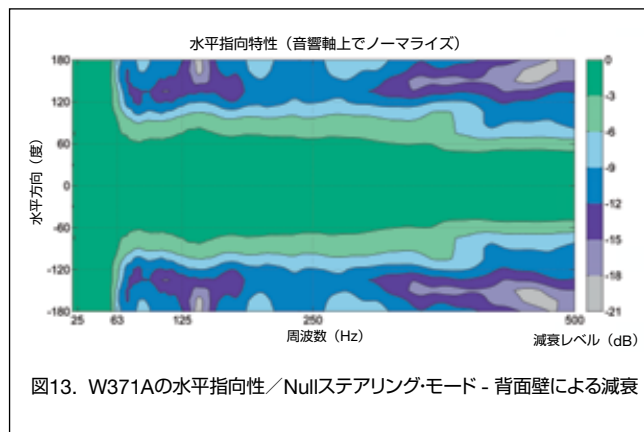
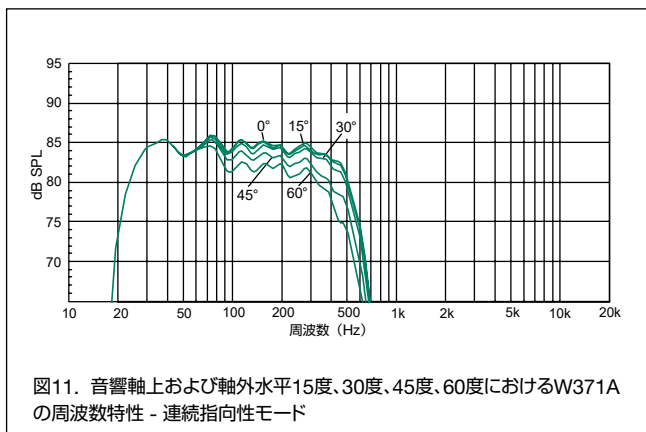
\* 室内 LF ロールオフ -6 dB ターゲット：19 Hz

\*\* HF ロールオフは、オペレーティング・モードおよび室内特性によって決定されます（150 Hz ~ 300 Hz）。

| 信号処理セクション   | W371A  |
|---|--|
| XLR メス・アナログ入力、バランス 10 k Ω   | ピン 1：グランド、ピン 2：正相、ピン 3：逆相  |
| 最大アナログ入力信号  | +25.0 dBu  |
| アナログ入力感度（100 dB SPL @1 m）   | -6 dBu   |
| 調整範囲  | +48 dBu ~ -6 dBu   |
| XLR メス・デジタル入力端子 110 Ω   | AES/EBU 同軸   |
| デジタル信号出力/XLR オス Thru 端子 110 Ω   | AES/EBU 同軸   |
| デジタル・オーディオ入力<br>ワード長<br>サンプル・レート<br>デジタル入力感度（100 dB SPL@1 m）<br>デジタル入力最大アッテネート<br>入力ゲイン選択（GLM コントロール） | 16 ~ 24 bits<br>32 ~ 192 kHz<br>-30 dBFS<br>48 dB<br>(+6、+12、+18 dB) |
| コントロール・ネットワーク<br>タイプ<br>接続およびケーブル<br>システム・キャリブレーション   | 独自の GLM™ ネットワーク<br>RJ45、標準 CAT5 以上のケーブル × 2<br>AutoCal               |
| 入力/出力接続   | アナログ XLR 入力 × 1、アナログ・スルー × 1、XLR デジタル AES/EBU 入力 × 1、デジタル・スルー × 1    |



| アンプ・セクション                               | W371A                  |
|---|------------------------|
| アンプ瞬間出力（長時間出力はドライバー保護回路により制限）           | 400 + 400 W            |
| アンプ・システム THD（通常出力時）                     | <0.01%                 |
| 電圧                                      | AC100 ~ 240 V 50/60 Hz |
| 消費電力<br>スタンバイ（ISS 有効）<br>オフ<br>フル出力、ピーク | <2 W<br>40 W<br>600 W  |



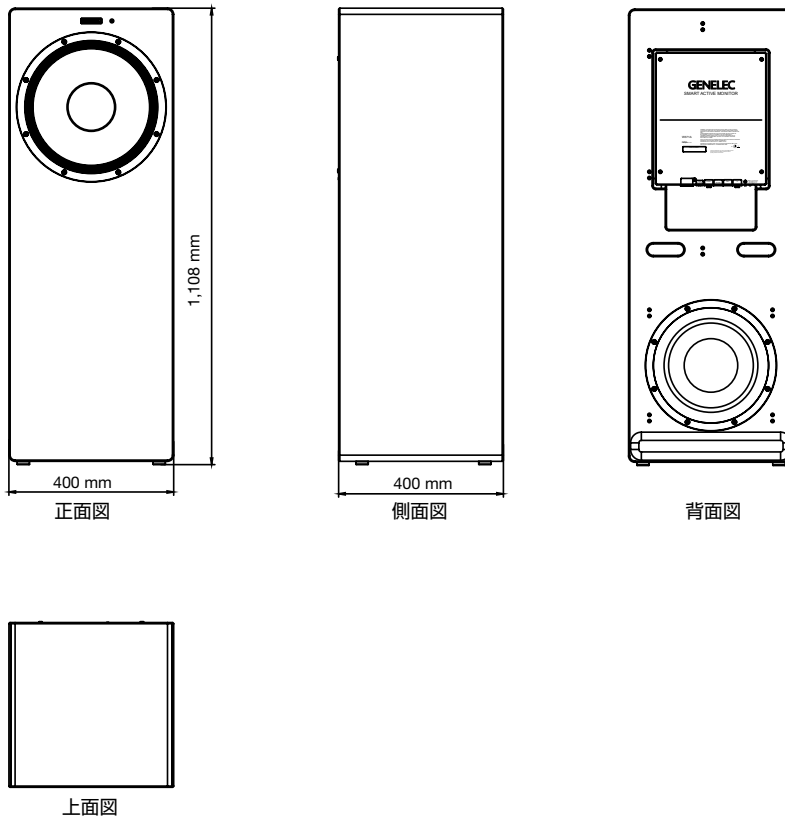


图16. W371A寸法



# GENELEC®

株式会社ジェネレックジャパン  
<本社>  
107-0052  
東京都港区赤坂二丁目22番21号  
[www.genelec.jp/customer-service/](http://www.genelec.jp/customer-service/)

修理お問い合わせ先  
<ジェネレックサービスセンター>  
e-mail : [support@genelec.jp](mailto:support@genelec.jp)  
電話 : 050-3786-1236  
平日 10:00 ~ 17:00  
(夏季 / 年末年始休業を除く)